

カントリーリローロード

緑のふるさと協力隊員

神東美希かんとうみきの奮闘記

3

私が「愛媛県出身です」と自己紹介すると、「愛媛って四国だったか」と聞かれたり「四国四県の位置がよく分からない」と言われたりします。本町の人たちにとって、それほどなじみの薄いところなのではないか。というわけで今回は、私のふるさと「愛媛」について書きます。

愛媛県は四国地方の北西部（地図で見ると左上部分）に位置し、広島県とは瀬戸内海を挟んで向かい合っています。言わずと知れたみかんの産地で、「愛媛県では、水道の蛇口が3つあり、青い蛇口は水、赤はお湯オレンジはポンジュースが出る」という都市伝説があるほど！みかん以外のかんきつ類の生産も盛んで、キウイフルーツとイヨカンが日本一なんです。

私の住んでいた伊予市は海あり山ありの土地、人口4万人弱のこぢんまりした町です。家から海までが徒歩10分の距離にあるので、海はとて身近な存在。夏休みには海で遊んで、水着のまま歩いて家に帰ったりしていたほどです。また「日本の夕日百選」にも選ばれたきれいな夕日を見ることができ、夕方には空と海がオレンジ色に染まります。水平線

に沈んでいく夕日を眺めるのが私は大好きでした。

「ところ変われば品変わる」とはよく言いますが、特に私が注目したのは「方言」です。本町の人たちと話していると、聞きなれない言葉がたくさん出てきます。「みるい」「まめつたい」「うつつやる」「おぞい」など、数えあげればきりがありません。分からないときはその都度「どういう意味ですか」と聞くようにしています。ときどき分かったような顔をしてやり過ぎることも…。

最近川根弁がむしろなくなってきた「川根弁メモ帳」に書き留めるようにしています。

愛媛の方言は「伊予弁」と言います。イントネーションは関西弁や広島弁に近いかもしれません。「いつてきます」を「いつてこーわい」、「帰ります」を「かえつてこーわい」と言ったりします。

また、「運ぶ」ことを「かく」と言います。昔、会社の同僚に東京出身の人がいました。「その机かいといて（その机を運んでおいてね）」とお願いしたのに、机の上に「つくえ」と書いたメモがあるではありませんか！どうやら『机』という文字を書

く」と勘違いしたようです。これには一同大爆笑。今でも語り草となっています。

とはいえ、私も川根弁に関してはまだまだ無知なので、おかしな返事や反応をするかもしれません。皆さん大目に見てくださいね。

さて、8月から「ヒトの魅力@かわねほんちよう」目指せ100人！プロジェクトがスタートしています。

これは「本町のことを知るには、まず人を知ることだ」という思いから生まれた企画です。来年の3月までに町民100人にインタビューして、私の活動ブログなどで紹介していきます。

「本町の人にはええ人ぎりやけん、協力してくれるやろ。みんなんとこに会いに行くけん、待つとつてやろ」（意味は私に聞いてくださいね）。



神東美希（かんとうみき） 愛媛県伊予市出身 緑のふるさと協力隊員第18期生。緑のふるさと協力隊は、特定非営利活動法人地球緑化センターが推進する事業。農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に1年間派遣。隊員として、農業や観光施設などで協力活動をする。美希さんは、本町5代目の隊員。



ブログ「徒然かつこ in川根本町」執筆中！ <http://katsuko-topparohy.seesaa.net/>

